

保護者・地域・行政・学校の4輪駆動で小学校を存続させ

地域を活性化しよう！

佐々並小学校愛育会

| | | |
|------------|--|---|
| PTA名称 | 萩市立佐々並小学校愛育会 | 学校写真  |
| 所在地 | 山口県萩市大字佐々並2499 | |
| 学校地域の概要・組織 | <p>江戸時代に萩往還の宿場町として栄えた佐々並は、以前から自治会活動や地域の伝統行事等を通してつながりの強い地域である。特に地域とは「地域協育ネット」を通して、近隣学校や関係機関との交流活動が盛んである。けれども、近年、住民数減そして少子高齢化のため、児童数が最も少なくなり、地域の大きな懸案事項となっている。</p> <p>家庭数は10（児童数14人）で父母のどちらかが卒業生であり、とても親密につながっている。組織は、成人教育部と環境・保体部の2部であるが、活動は全員で行っている。</p> | |
| 研究テーマ | <p>「ささラブ応援隊」地域・家庭・行政・学校の4輪駆動 佐々並のキセキ ～奇跡から軌跡へ～</p> | |
| 成果と課題 | <p>佐々並小学校は近年特に児童数が減少し、令和3年度は全校児童14人、令和2年度から地域の保育園（分園）が休園、地域には未就学児が0人、来年度以降入学予定児童なし、このままでは令和8年度に児童数0人で休校になることが状況であった。そこで学校と保護者が懇談し、地域活性化のためにも「何とか学校を存続させたい」という熱い思いが一致して、行政や地域に呼びかけ、令和2年12月に「ささラブ応援隊」を結成した。この保護者、地域、行政そして学校が一致団結した4輪駆動の活動がスタートし、「移住定住で児童数を確保」をめざし、昨年度の2月に、みんなの知恵とアイデアを集結した「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」を実施した。主に保護者（PTA）が中心となって企画や運営を行った。</p> <p>これまで3回の見学会を通して、4家族7名の子どもの移住が見込まれ、令和7年度まで念願の新1年生が確保されている。「佐々並のキセキ」の「奇跡」が起こり、見学会などの実践的な活動により、他市からの移住があったことが町全体のうれしい大きな話題となり、活動をさらに活気づけている。しかし、成果がなければ活動を持続させるためのモチベーションが上がらないという厳しい現状もある。これらの活動が町全体に広がり、持続可能となり、成果を積み上げていく「軌跡」（足跡）になることを願って「ささラブ応援隊」の活動を進めていきたい。そして地域の小規模校の存続、地域活性化の「期待のモデル」になりたいと考えている。</p> | |

活動内容 「ささラブ応援隊」地域・家庭・行政・学校の4輪駆動

佐々並のキセキ ～奇跡から軌跡へ～

はじめに

「休校」か「学校存続」か？どちらかの選択を迫られている佐々並小学校。近年特に児童数が減少し、令和2年度末は全校児童13人、昨年度地域の保育園（分園）が休園して、地域には未就学児が0人、令和3年度から入学予定児童なし、このままでは令和8年度に児童数0人で休校になってしまう。このまま何もしないと、選択肢は「休校」のみとなる。

これらの課題を受けて昨年10月に学校と保護者が懇談し、そこでの意見は「休校（統合）」と「学校存続」が半々であった。11月に2回目の懇談、父母のどちらかが佐々並小の卒業生であり「なんとか学校を存続させたい」という熱い思いが一致。しかし学校や保護者の力だけではどうにもならないことから、校長の発案で「ささラブ応援隊」を結成することになった。行政や地域にも声をかけ、12月15日に「第1回ささラブ応援隊全体会」を開催し、地域・保護者・行政・学校の地域学校協働活動がスタートした。まず現在の課題を出し合いながら、今できることを熟議し、「移住定住で児童数を確保」をめざして大きく舵を切って進み始めることにした。2回目の全体会で「佐々並小学校と住まいの見学会」の実施が決まり、事務局チーム、空き家探索チーム、広報・情報公開チーム、アイデア実践チームに分かれて見学会の準備が始まり、3回目の全体会で実施に向けて大きく進んだ。行政や地域の支援の力も日増しに大きくなっていることが実感できるようになった。

「学校存続」に向けた地域総がかりの取組が進んでいる。「最後の大きな一手」の可能性を信じながら前進していく覚悟を、当事者である全員が持ち始めている。



1 「ささラブ応援隊」の概要

※「規約」より

(1) 参画資格

佐々並小学校および佐々並を愛する人ならだれでも参画できる応援隊

(2) 目的

地域住民や児童の保護者が主体となって行政や学校と協働し、学校存続や地域の発展に貢献するために必要な事業を企画・運営・実践していく。

(3) 事業内容

- ①佐々並地区の学校存続のために必要な事業
- ②佐々並地区の歴史・文化・産業について学校教育を支援する事業
- ③移住者を増やし佐々並地区を活性化させる事業



- ④地区内の地域振興団体と連携し、地域活性化に資する事業
- ⑤歴史ある街並みを保全し、環境を整備する事業
- ⑥佐々並地区の情報発信に関する事業
- ⑦隊員相互の親交に関する事業
- ⑧その他地域の振興に資する事業

2 「ささラブ応援隊」の活動の様子

4つのチームに分かれて熟議を実施 →チームリーダーが常時情報交換を行っている。

| | |
|---|---|
| 事務局チーム <ul style="list-style-type: none"> ・全体の取りまとめ ・進行やスケジュール管理、情報収集 ・会議の企画・運営や会計 ・外部との交渉のための最初の窓口 ・他地区の取組を調査して伝達 | 空き屋探索チーム ※萩市との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・佐々並地区の空き屋について調査 ・小学生が住むことが可能な住居の探索 ・他の「空き家バンク」とリンク |
| 広報・情報公開チーム <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動やお知らせを紙媒体（ポスターやチラシ）を作成して配付・ささラブ応援隊ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramなどを活用して移住定住を広く周知する 活動 | アイデア実践チーム <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな視点でアイデアを考えて積極的に進言する。 ※主に母親が活躍 ・各チームの実働支援部隊になる。 |

3 これまでの軌跡（令和2年度より）

移住促進に向けての主な活動

| 令和 | 月 | 日 | 活動名 | 内容 | 成果・課題 |
|----|----|----|-----------------------------------|----------------------|--------------------------------|
| 2 | 10 | 24 | 学校と保護者との懇談会① | 休校（統合）」 or「学校存続」 | 次回までの宿題 |
| 2 | 11 | 28 | 学校と保護者との懇談会② | 学校存続の方針決定 | ささラブ応援隊の発足の提案 |
| 2 | 12 | 15 | ささラブ応援隊発足 第1回全体会 | 顔合わせ、主旨説明、 チーム別会議 | 見学会の開催が決定 |
| | | | 以後 全体会3回 チームリーダー会議1回 前日準備1回 | | |
| 3 | 2 | 27 | 第1回佐々並小学校と住まいの見学会 | 学校公開・住まいの紹介・地域の紹介 | 参加家族7組 移住家族1組決定 子ども2 |
| | | | 以後 必要に応じて役員会 ・ 総会・全体会を開催 | | |
| | | | | | |

| | | | | | |
|---|-----|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 3 | 7 | 2 2 ~ 2 5 | 第2回佐々並小学校と住まいの見学会 | ※オンライン開催 学校公開・住まいの紹介・地域の紹介 | 参加家族2組 興味あり5組 ※SMOUTより |
| 3 | 1 1 | 6 | 第3回佐々並小学校と住まいの見学会 | 学校公開・住まいの紹介・地域の紹介 | 参加家族5組 |
| | | | | 移住家族2組決定 子ども4 | |
| 3 | 1 2 | 1 3 | 移住希望者 案内会 | 学校見学・住まいの紹介・仕事の紹介 | 参加者1人 |
| | | | | 移住家族1組決定 子ども1 | |

4 見学会までの過程と成果

「地域の学校はずっと続いてほしい」

これは地域全員の願いである。けれども少子化の波はどこも同じで、特に小規模校は深刻で、入学児童がゼロになる厳しさもある。

先日、休校になった学校の地域の方から「こうなる前に何かできることがあったのでは」という話を聞いた。「休校」を目の当たりにした多くの方がそう思い、だれが何から始め、何ができるのか不明のまま時間だけが過ぎて休校になってしまうのだろうか。

2020年10月に学校と保護者の懇談を実施。母校が続いてほしいという保護者の切実な思いとともに、学校と保護者だけでは到底解決できないことも実感した。

それならば地域と行政と一緒に対応していこう、「ささラブ応援隊」の発足を提案。そして保護者、地域、行政そして学校の「4輪駆動」の学校存続活動が始まった。活動が始まった途端、この時を待っていたように地域全体が大きく動き出した。新入生確保が大きな目標、小学校だけでなく住まいの紹介や地域の魅力も発信していく見学会を計画。実施はなんと2ヶ月後の2月27日、夜に何度も熟議を行い、全員で知恵やアイデアを出し合って計画を練った。「今しかできない、今やらないと」大人の本気に火が着いた。

「移住希望の家族の参加があるだろうか？」

見学会の企画段階で全員が感じていたことだった。前例のない活動で全くあてもなかった。

とにかく今できることをやろう。印刷会社に勤める保護者がプロ仕様のポスターとチラシを作製。保護者が手分けして市内外のスーパーやコンビニにポスターを張り、山口市の主な公営住宅一軒一軒にチラシを届けた。地域の情報紙や新聞、佐々並出身のタレント出演のテレビ番組でも紹介され、それらの効果があり、7組の応募があった。地域の方が「直接支援はできないけど、家で作った佐々並産の野菜など提供できるよ」早速地域での呼びかけが始まり、前日までに新鮮な野菜と200kgを超える佐々並米が、温かい応援の言葉と共に学校に届いた。たくさんの届け物に一番喜んだのは児童だった。自分達が地域の方にとって大事な存在であることを感じたのだろう。

見学会当日は、複式学習や特色であるオンライン授業の公開、児童による佐々並の魅力紹介、市のバスで住まいの見学と観光案内、佐々並産プレゼントを行った。なんと3組の家族から移住の希望があり、家族にマッチする住まい探しが急ピッチで始まった。待望の新入生は、その家族の中において、後日住居が決まり待望の第1号の新入生となった。

5 移住決定者家族の様子



今春移住家族（宇部市）
（1年生・年少）



来春移住家族（山口市）
（新4年生・新1年生）



来春移住家族（宇部市）
（新年長・新年少）

☆県外から1家族（埼玉県：新年中）の移住が決まった。

4家族14人 うち子ども7人！

佐々並小学校 今後の児童数の推移

| | R 2 | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 | R 8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 1年 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 休校0人 →6人 |
| 2年 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | |
| 3年 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | ※明木小 →6人 |
| 4年 | 3 | 3 | 2+1 | 2 | 1 | 1 | |
| 5年 | 3 | 3 | 3 | 2+1 | 2 | 1 | ※旭中 →21人 |
| 6年 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2+1 | 2 | |
| 合計 | 16 | 14 | 13 | 11 | 10 | 8 | |
| 学級数 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | ※特支含む |

**※赤字は移住定住で児童数が増えた学年
合計7人増加**

6 「ささラブ応援隊」の応援グッズの作製



この度、山口県PTA連合会から「PTA活動支援助成校」の指定を受けて、助成金をいただいた。

これまで学校キャラ「ささラブ」の缶バッジなどを作製して、児童や地域の方に配付し、地域でも大きな話題となって愛着が高まり、双方方向のつながりも増した。

今回は「クリアファイル」を作製して、佐々並小学校や地域のことをもっとよく知ってもらうためにアイデアを活用して作製した。

おわりに

この活動が始まった時、保護者や地域住民の雰囲気から、とても難しいという課題に直面していると感じた。このような学校存続をめざす活動は前例がほとんどなく、それどころか、令和2年度末に、山口県では3校の小学校が休校になり、近隣の学校に統合されることになった。しかもそのうち2校は本校よりも児童数が多いけれど休校になり、さらに危機感が増していくのを感じた。だからこそみんなで力を合わせてがんばろうという地域・保護者・行政・学校の4輪駆動の取組が動き始めたと考えられる。何もかも初めての取組で、活動の迅速化を図るために最初は4グループに分かれて活動したが、全体会ではみんなで意見や考えを出し合いながら、全員でベストな方法を模索しながら進んでいった。今後も持続可能な活動にするために、主に保護者が中核となって計画を進めていきたい。佐々並地域だけでなく、小規模地域は保護者である若い子育て世代が地域の担い手である。自分の子どもが卒業しても、今度は地域住民として活躍が期待されている。それだけに大きな負担にもなっているが、地域活性化のためには子育て世代が必要不可欠な貴重な原動力である。これらの活動には行政の支援が重要である。行政は支援のツールをたくさん持っており、特に公的住居の提供、各種手当、補助金などの大きな手助けにより、活動を大きく支えている。「佐々並のキセキ」の「奇跡」が起こり、見学会などの実践的な活動により、他市からの移住があったことが町全体のうれしい大きな話題となり、活動をさらに活気づけている。令和3年11月現在、第1回目の見学会で1家族が移住して新1年生と4歳児、第2回目では移住を決めた家族があり来春に新1年生と新4年生が仲間入りする。他にも来年度に移住予定の家族（5歳児と3歳児）、埼玉県からの移住もあり、4家族7名の子どもが移住が見込まれ、令和7年度まで念願の新1年生が確保されている。

これらの活動が町全体に広がり、持続可能となり、偶発的な「奇跡」から成果を積み上げていく「軌跡」（足跡）になることを願って「ささラブ応援隊」の活動を進めていきたい。そして地域の小規模校の存続、地域活性化の「期待のモデル」になりたいと考えている。



公開授業



児童の学校紹介プレゼン



空き家の見学



第3回佐々並小学校と住まいの見学会の全体写真



地域の方からたくさんのお土産の提供